

NHK大河ドラマ節目の50作目は滋賀が舞台!

『江～姫たちの戦国～』

今年のNHK大河ドラマは、滋賀県を舞台に浅井三姉妹の生涯を描いた『江～姫たちの戦国～』です。高島市は、次女 初が新婚生活を過ごしたとされるゆかりの地です。

舞台は戦国時代

日本歴史の中で、戦国時代とは文字通り、戦いの世であり、まさに下剋上げくじょうの世の中で下の立場にあるものが上の人をしのいで勢力をふるう時代です。戦国時代、近江からは数々の名将が世に出ました。その一角を彩る武将に江北の浅井氏あさいがいます。浅井氏は、もとは近江の守護職であった京極氏きょくに仕えていましたが、応仁の乱以後、越前

浅井三姉妹



長女
茶々
(淀殿)



次女
初
(常高院)



三女
江
(崇源院)

時代に翻弄される三姉妹

の朝倉氏、美濃の斎藤氏と結んで巨大になり、亮政、久政を経て長政へと続き戦国大名として勢力を伸ばしていきましました。長政は、織田信長の妹お市を妻として迎えて、小谷城(長浜市)に君臨しました。長政とお市のあいだに産まれたのが長女 茶々(淀殿)、次女 初(常高院)、三女 江(崇源院)たちでした。大河ドラマでは、この三姉妹が戦国時代の女性として大きく取り上げられています。

大溝城と初

近江高島の大溝は、天正6年(1578年)織田信長の甥にあたる信澄が磯野員昌の跡地をあてがわれて、大溝城を築城し城主となっていました。しかし、信澄は天正10年(1582年)本能寺の変が勃発すると、明智光秀の娘を妻とされていることから、大坂城一の丸千貫櫓にて織田信孝(信長の三男)と丹羽長秀に攻められ自害します。

信澄なきあと、大溝城の城主は代々代わり、天正15年から18年にかけて次女 初の夫である京極高次が城主として入城します。高次にとっては、初と過ごしたとされる大溝時代は人生の基礎を固めた大切な時期であったことが年譜からうかがえます。

初代大溝藩主となる分部光信は伊勢の出身で、この戦国時代の事跡を水城の大溝城本丸跡に立ち思いをめぐらしたであろうことが推察されます。皆さんも一度、大溝城跡に登り戦国時代に夢を馳せてください。

※事跡：物事が行われたあと。

高島歴史民俗資料館
☎(030) 150503

初
ってどんな人?



名門武将、京極高次と結婚。高次は初たち三姉妹のいとこにあたります。関が原の戦い、大坂の陣では姉の豊臣家と妹の徳川家に板ばさみになりますが、使者となり和平交渉に奔走します。三姉妹の中で一番長く生きました。享年66歳。

高島のゆかりの地

大溝城跡(高島勝野)



▲9月下旬には、彼岸花が周囲に咲き乱れます。



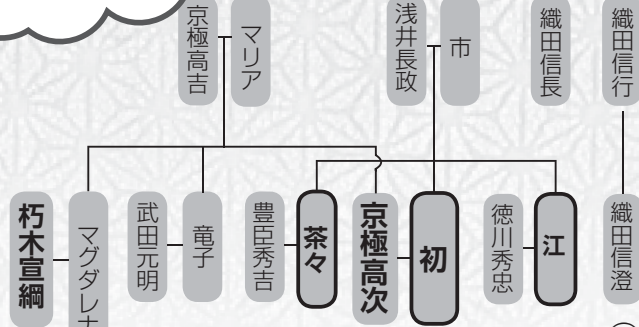
◀大溝城の外堀の役目を担っていた乙女ヶ池。

織田信長が天正4年(1576年)安土に壮大な城を築いて、対岸の高島の地に天正6年(1578年)大溝城が築かれました。この城は、明智光秀の設計と伝えられ、琵琶湖とその内湖(現:乙女ヶ池)を巧みに取り込んでいます。

城主は織田信澄でしたが、本能寺の変以後、城主は代わり天正15年から18年にかけて、浅井三姉妹の次女初の夫である京極高次が城主を務めます。

現在は、緩やかな傾斜の天守台石垣が残されています。

家系図



京極家 朽木家
京極家・朽木家は、近江の佐々木源氏の系統です。家紋にもその流れを見ることができます。

織田信澄 (初代大溝城主)

興聖寺(朽木岩瀬)



▲関西花の寺 第14番(老椿)。

嘉禎3年(1237年)宇多天皇の流れをくむ近江の守護佐々木信綱は、曹洞宗の開祖道元禪師に一族の供養をお願いし、朽木の上柏に高厳山興聖寺の建立が進められたとされています。

朽木氏は、佐々木信綱を元祖とし高信を2代目、高信の次男頼綱を3代目とし頼綱の三男義綱から朽木氏を名乗り、その統治は廃藩置県まで続きました。

一方、室町幕府の12代将軍足利義晴、その子13代義輝は3度にわたり計8年間朽木荘に乱を避けて滞在しました。その折、将軍の心を癒すために、旧秀隣寺庭園(足利庭園)が造られたといわれています。



観光に関するお問い合わせ・・・(社)びわ湖高島観光協会 ☎(22) 6111

